

2024年7月9日

## アイリスオーヤマの食品事業、30年に売上1,000億円へ 鳥栖工場、新たに食品の生産開始 アジア圏と西日本へ輸出拠点に

アイリスオーヤマ株式会社（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：大山 晃弘）は、本日、鳥栖工場（佐賀県鳥栖市）でパックごはんと炭酸水の本格生産を開始します。同工場は西日本における食品の生産・物流拠点、ASEAN 含むアジア圏への輸出拠点となります。

当社は、東日本大震災の被災地支援と農業復興を目的に 2013 年に精米事業に参入しました。2015 年にはパックごはん事業に参入、2017 年には角田工場（宮城県角田市）で自社生産を開始し、その後も生産設備を増設してきました。2021 年には、首都直下型地震や南海トラフ地震など、高い確率で発生が予想される災害発生時における飲料水供給の課題解決を目指して飲料水事業に参入し、2023 年には富士小山工場に続き 2 拠点目となる富士裾野工場（静岡県裾野市）の稼働を開始するなど食品の生産・供給体制を強化しています。

今回、鳥栖工場で食品の本格生産を開始することで、パックごはんは角田工場（宮城県角田市）と合わせた 2 工場で計 6 ライン体制、日産約 120 万食の生産能力となります。今後鳥栖工場稼働予定の 2 ライン目を加えると日産約 140 万食となる見込みです。炭酸水は、国内 3 工場で計 4 ライン体制、1 時間当たりの生産能力は約 9 万 4,000 本に上り、今後更なる増設を計画しています。

日本の食品輸出額は伸長しており、パックごはんは 2023 年には 2019 年比で約 2 倍の 10 億円<sup>※1</sup>、清涼飲料水は 2023 年には 2013 年比で約 4.3 倍の 536.7 億円<sup>※2</sup>と伸長し、海外での需要が高まっています。農林水産省では、海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備転換等に対して総合的に支援する「産地生産基盤パワーアップ事業」<sup>※3</sup>を行うなど食品輸出を後押ししています。鳥栖工場は、同事業を活用してパックごはんの設備を導入し、ASEAN 含むアジア圏への食品の輸出拠点と位置付け、2030 年のパックごはんと飲料水の輸出額はそれぞれ、30 億円と 50 億円を見込んでいます。

また、鳥栖工場では、炭酸水の新ブランド「CRYSTAL SPARK（クリスタルスパーク）」を国内工場ですべて初めて生産します。ネーミングから味わいがイメージしやすく、爽やかに弾ける炭酸の爽やかさ、毎日の暮らしに煌めきを添えたいといった想いを込めた商品です。「CRYSTAL SPARK（クリスタルスパーク）」の発売を機に炭酸水ブランドの確立を目指します。

当社は今後、国内 7 拠点の食品工場の生産設備増設により生産体制を増強し、さらなる生産拠点の増設も視野に入れ、2030 年には食品事業で 1,000 億円、うち輸出額 100 億円の売上を目指します。

※1：財務省「貿易統計」、農林水産省農産局企画課「米の輸出をめぐる状況について」（令和 5 年 12 月）参照。

2023 年は 1～10 月の実績で算出。

※2：農林水産省「清涼飲料水の輸出実績（2013～2023 年）」参照。

※3：農林水産省「米をめぐる関係資料」（令和 5 年 3 月）参照。

■当社の「パックごはん」・「炭酸水」の生産能力

<パックごはん>

工場名	生産能力（食/日）	ライン数	全工場の生産能力（食/日）
角田工場（宮城県）	1,000,000	5	1,200,000
鳥栖工場（佐賀県）	200,000	1	

※2024年7月9日時点

<炭酸水>

工場名	生産能力（ケース/h）	生産能力（本/h）	ライン数	全工場の生産能力（本/h）
富士小山工場（静岡県）	1,300	31,200	2	93,600
富士裾野工場（静岡県）	1,300	31,200	1	
鳥栖工場（佐賀県）	1,300	31,200	1	

※2024年7月9日時点

■アイリスオーヤマ 鳥栖工場 食品生産品目（一例）



パックごはん  
「低温製法米の美味しいごはん®」



（新ブランド）炭酸水  
「CRYSTAL SPARK（クリスタルスパーク）」

■工場概要

住所：佐賀県鳥栖市西新町 1375-26  
 竣工：1990年4月（国内3番目）  
 品目：プラスチック製品・LED照明、  
 精米・パックごはん・飲料水  
 敷地面積：159,751 m<sup>2</sup>  
 延床面積：112,753 m<sup>2</sup>  
 自動倉庫パレット数：64,816 枚

